



石神井ケルン

早くももう 15 年になるが、定年まで勤めていた会社の人たちとのセンチメンタルジャーニーである。かつてはモンテSPA（山と温泉）と称して 20 人近くの人が集まって（奥さん同伴もいた）マイクロバスを仕立てて行ったりしたこともあった。当時は奥日光の山や東北の秋田駒などそれなりにちゃんとした山などにも登っていた。今ではそんな人たちも年取って“山はちょっと！”という感じになってしまったので、岸田さんと正田さんと私との 3 人のみになってしまった。一時は私の上司であった時もある正田さんが今は一番元気だ。上司であった当時にはこの人が山登りをするなんて思わなかったが、年取ってから誘う人がいたらしく、今では月 2 回ペースで登っているらしい。今回は八方池までしか行かなかったが、唐松岳まで行きたかったようである。完全リタイヤした今でも、コーラス・山・ゴルフ・ボランティア活動で忙しいみたいだ。岸田さんは余命 8 年と言われたとかで（それが今回モンテSPA復活のきっかけになった）、今は体力に自信がないが人と付き合っていると気が晴れるということだ。私より 3 ヶ月くらい年上であるから“余命 8 年なら十分じゃないですか！”と言ったら“100 までは生きる！”と宣言していた。

台風の影響を受けて行けるかどうか心配されたが何とかあった。初日はいわさきちひろ美術館の見学を行った。ちょっと見物位のつもりであったが、行ってみたら大感動であった。



昼飯前にちょこっと見るつもり位で入ったが、感動のあまり館内のカフェで飯も食って午後もしつこく見た。あの画風や顔立ちからは想像もつかないような背景もあるということが良く解った。“こんな絵を描く人がどうして共産党なんですか？”という質問に対して“共産党だからこういう絵を描けるんです”と答えたという。私も同じ疑問を持っていたが、まだ解らないけれども一つの答えをもらったような気もする。



ちひろ美術館のカフェで

事前の天気予報では曇りであったが快晴に恵まれた。なんといっても山は天気が一番である。連休や台風の直後とかの条件であったが、観光客はそれなりにいた。香港から来たという人たちや欧米系と思われる人たちも見かけた。私も世界中の山を見て回っているが、ひいき目なしに日本の山が一番美しい。そのことの証明を得るために世界中の山を見たといっても過言ではない。



白馬3山と紅葉